春の火災予防運動

春先は、空気が乾燥しやすく火災が起こりやすい時季です。
火の取り扱いには十分注意しましょう。

春の火災 予防運動期間 3/20(木)▶3/26(水)

住宅防火 いのちを守る7つのポイント

3つの習慣

1. 寝たばこは、絶対にやめましょう。
2. ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用しましょう。
3. ガスこんろなどのそばを離れる時は、必ず火を消しましょう。

4つの対策

1. 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置しましょう。
2. 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用しましょう。
3. 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置しましょう。
4. お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくりましょう。

事前に防げる住宅火災。
皆さん是非実行してください。

平成25年中の 原因別火災件数

火災 63件

焼損床面積：（建物）1,240㎡／損害額：1億5,524万4千円／死者：3人　負傷者：16人

火災の怖さを理解しよう

火災から避難するときは・・・

火災で怖いのは火と煙です。火災の犠牲者の多くは、煙を吸ったり、煙にまかれて逃げ道を失ったりして命を落としています。避難するときには煙にも注意して、次のことを守りましょう。

●早く逃げよう
服装や持ち物にこだわらず、早く逃げましょう。

●いっきに走りぬけよう
炎の中はいっきに走りぬけましょう。

●煙の中は姿勢を低くしよう
煙の中は姿勢を低くして逃げましょう。

●一度避難したらもどらない
一度外に出たら、ぜったいに家の中にもどってはいけません。

わが家の地震対策

●「定期的なチェック」を忘れずに！

非常持出品を準備しよう

災害が発生したときに持ち出せるように準備しておきたい主な避難用品などを紹介します。あまり重いと避難に支障が出るので、大人の男性15kg、女性10kgくらいまでを目安にリュックサックなどに詰めておきましょう。

非常持出品の例

貴重品	懐中電灯	携帯ラジオ	携帯電話
救急医薬品	衣　類	生活用品	ヘルメット・防災ずきん
水・非常食	その他 •緊急用ノート・筆記用具・メガネ（コンタクトレンズ）・ホイッスルなど		

※あくまで例なので自分の家庭に必要なものを準備しましょう。

住宅用火災警報器

住宅用火災警報器は命を守る大切な機器です。
日頃からお手入れや点検をしましょう。

お手入れと点検の方法

●お手入れをしましょう
警報器にホコリがつくと火災を感知しにくくなります。
汚れが目立ったら、乾いた布で拭き取りましょう。

●点検をしましょう
点検は、ボタンを押したり、ひもがついているタイプのものは、ひもを引いて行います。詳しくは取扱説明書をご確認ください。

警報が鳴ったときは

●火災のとき
大声で周りに火災を知らせ、119番通報をしましょう。可能であれば消火を行ってください。消火が難しそうな場合は、速やかに避難してください。

●火災でないとき
火災以外の湯気や煙などを感知して誤作動する場合、あるいは、電池切れにより警報音が鳴る場合がありますので、詳しくは取扱説明書をご確認ください。

※台所でよく鳴る・・・ 煙や湯気が直接かからない場所に警報器の場所を変えるか、熱式の警報器に取り換えてください。